

Future

Machida

2050



01 About

なぜ 私たちが、 今回の研究をしたのか。



少子高齢社会の進展、低迷を続ける経済状況などの社会状況の変化は、市民生活に大きな影響を及ぼしています。一方、地方分権が進む中、地域の現状に即した特長ある政策を打ち出すことが求められています。

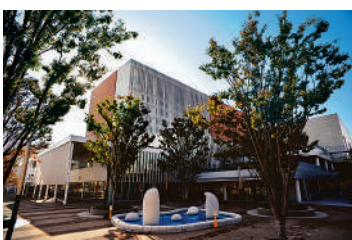
これまで、自治体では過去のデータや実績から導かれるトレンドに基づく「フォアキャスティング手法」と呼ばれる将来予測により、自治体としての戦略、計画を立案していました。

しかし、テクノロジーの急速な発展により、現在の社会、経済情勢は不確実で予測困難になってきており、「VUCA(※)の時代」と呼ばれるようになってきました。

そこで、今回の研究で町田市未来づくり研究所と東京都市大学 総合研究所 未来都市研究機構は、**不確実性を前提として、複数の未来を想定したシナリオ**を作成する「**シナリオプランニング手法**」による将来予測を実施することにしました。

やがて訪れる未来、テクノロジーの進化を見据えた、「**2050年の町田市の都市像**」について考え、提言しました。

(※) Volatility (変動性)・Uncertainty (不確実性)・Complexity (複雑性)・Ambiguity (曖昧性) の頭文字をとった造語。先行きが不透明で将来の予測が困難である状態。



町田市未来づくり研究所

市川宏雄
本吉仁志
野田健太郎
鬼頭敦子
大塚智仁

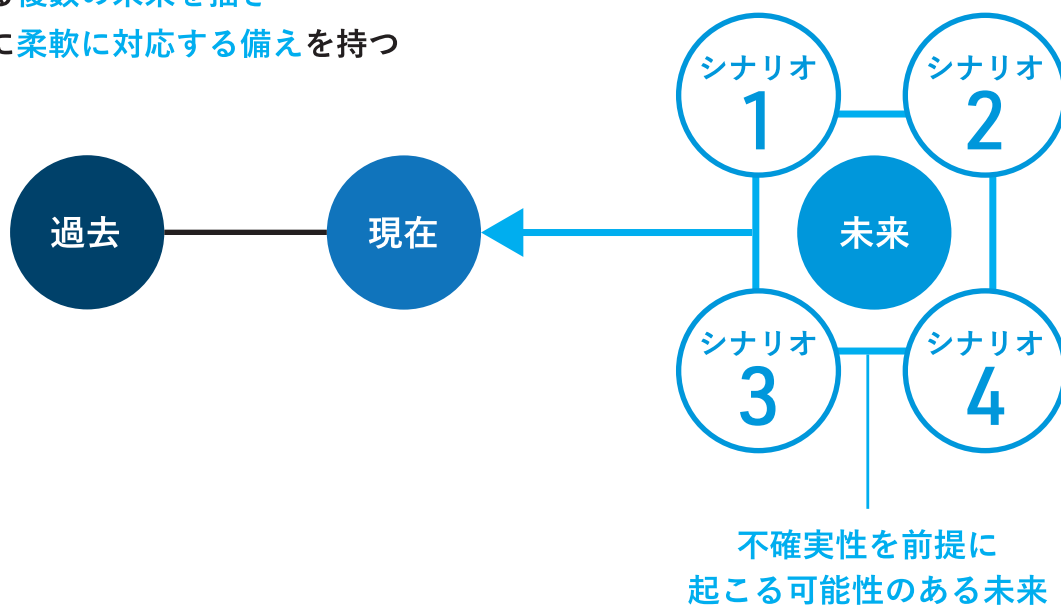


東京都市大学 総合研究所
未来都市研究機構

葉村真樹
北見幸一
西山敏樹
林和真 (2020年度のみ)



過去の延長で未来を予測するのではなく、
起こりうる**複数の未来を描き**
その変化に**柔軟に対応する備えを持つ**



各種リサーチ

ワークショップ

外部環境調査

東京都心30~40km内に位置する各自治体の研究、町田市のブランド調査

専門家ヒアリング

政治、経済、社会、技術の各領域計12名の専門家にヒアリング

日本マクロトレンド考察

日本において、今後30年で起きる可能性が高く、社会への影響度が高い出来事を考察

町田市ベースシナリオ

町田市ならではの課題や調査結果を加味し、起こりうる出来事を整理

未来への分岐点を抽出

町田市における未来への分岐点(KDF)を整理、検討

町田市の未来シナリオ

良いシナリオを現実化するための対応策検討

